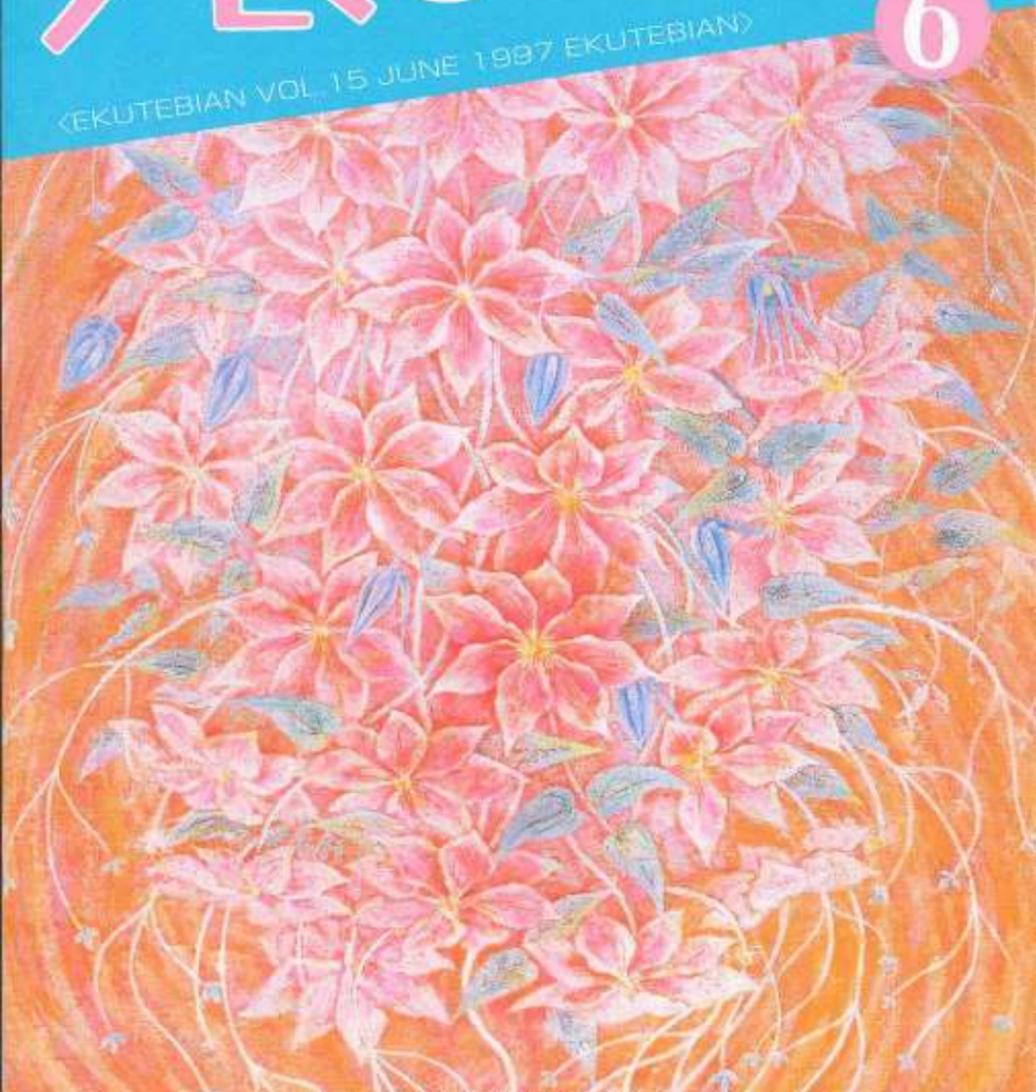
月刊
立川と語ろう 立川に生きよう
えくてびあん
6
〈EKUTEBIAN VOL.15 JUNE 1997 EKUTEBIAN〉
まいあーと■日本画「初夏に」by 渥美靖子

ラン科

キバナノショウキラン

撮影:宮城六郎

オニノヤガラ

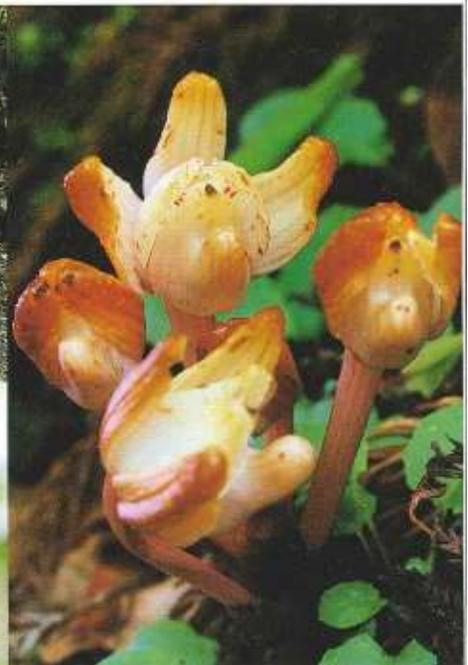
撮影:関根光夫

高尾山に生えるラン科の花の中でも稀産種といえる**キバナノショウキラン**は、梅雨の最中に咲く。どこに咲くのかはっきり分からないが、ある年は、こんな目立つ所に咲いていた。しとしと降る雨と高湿度の中での撮影はたいへんで、うっかりするとカメラの故障の原因となる。ある年、新型のカメラを持って行ったが高湿度のため途中で動かなくなってしまい、残念な思いをしたものである。

同じラン科の花に**オニノヤガラ**という無葉ランがある。こちらは、雑木林の中に生えるが、開発により雑木林がつぎつぎと住宅地に変わり、消えつつあるのは寂しい限りである。

キバナノショウキラン

オニノヤガラ

えくてびあんレポート

続・当世拾円市場

平成「立川10円友の会」編

小銭だなんて馬鹿にしちゃいけないよ。例えば二百円の買い物をしたと思いな。するってぇと百円玉2枚じゃ、今やそれが手に入んない。オイラが1枚必要になるってわけ。ナントカ税5％だってさ、時代も変わったねえ。だけどね、ホントはそんなシケた関りはしたくねぇんだ。オイラだってまだまだ……。そう思ってた矢先、『立川10円友の会』だって。そういやコイツら、12年前の昭和の時代にも、オイラを握って街中走りまわってたっけ（昭和60年7月号掲載）。泣かせるじゃないの、ええ？ま、見てやってよ。捨てたもんじゃねぇだろ、オイラもさ。しっかし立川の人間ってのは、やること可笑しいねえ…。（10円玉・談）

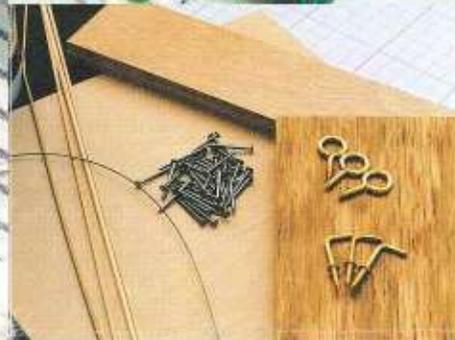
●駄菓子
10円と聞いて真っ先に思いうかぶのは、昔懐かしい駄菓子類パッケージは現代風になっても「1コ10円」はやっぱり駄菓子の代名詞（A、B）

●他にもこんなものが10円で
キーリング1本（I）、釣り用おもり1個、マッチ1個、（以上K）、自転車用ムシ（L）

●アマチュア無線部品
マニアにはお馴染みの抵抗と端末用の部品。それぞれ1個10円（E）

●ビー玉・おはじき
駄菓子と並んで懐かしモノの王者。
最近はインテリアとしても人気です（A）

●ボタン
見てるだけで楽しい色とりどりのボタン。
手芸店で1個10円から（F）

●コピー
街なかで最も多く見る「10円」の文字はコピーの看板。
1枚10円は不変。

●工作・日曜大工に
釘36本分、各種ヒートン1本（以上H）、木版9cm×15cm、1mm角材1本（以上I）、竹ひご、ピアノ線各1本（以上J）

●プラスチック食器
何と10円でおつり。スプーンは1個6円、フォークは7円。いざという時あると便利（C）

●公衆電話
携帯電話、
テレフォンカードの
攻勢にもめげず
頑張ってます。

●掛紙
折詰などの掛紙は2枚で10円。
1枚から売ってくれます（C）

●ギフトシール
たった10円で贈り物にさらに想いがこもる。
1枚づつでも購入可（G）

●おから
たっぷり2～3人前、約500gで10円は嬉しい。早速今夜のおかずにいかが!?（D）

◎購入店＝A：学校前（上砂町1丁目）B：むぎばたけ（錦町2丁目）C：杉山商店（柴崎町2丁目）D：中島豆腐店（羽衣町2丁目）E：杉原電子（上砂町3丁目）F：藤レディース（立川マイン2F）G：トポス立川店（曙町2丁目）
H：伸洋（柴崎町2丁目）I：Jマート（栄町2丁目）J：世界堂（ルミネ立川店6F）K：あさみ釣具店（錦町1丁目）L：輪輪館（柴崎町2丁目）

シリーズ
この人と1時間②

「負けん気」が、僕をずっと支えていてくれた。

外園祥一郎さん
―ユーフォニアム奏者―
（航空自衛隊・中央音楽隊）

航空自衛隊・中央音楽隊（栄町1丁目）所属のユーフォニアム奏者、外園祥一郎さんが、今年1月、英国バーミンガムで催された『国際チューバ・ユーフォニアム・カンファレンス』において、その年、世界で最も優れた実績を修めたとされる奏者に贈られる『ユーフォニアム・オブ・ザ・イヤー』を邦人で初めて受賞した。

音楽大学や大学院といった「バック・グラウンド」を持たずに、世界のトップ奏者の仲間入りを果たした外園さん。

わが工房にこの吉報が届いたのは、未だ余寒厳しい頃だったが、多忙な外園さんにようやくお会いできたのは、初夏の声を聞く頃となってしまった。その間にこのニュース、音楽を志す若者たちの光となって、全国をかけめぐっていた。

◆外園祥一郎（ほかぞのしょういちろう）：昭和44年鹿児島市生まれ。高校生の時から本格的に吹奏楽に取り組む。音楽大学への進学を希望するも経済的な事情から断念。卒業後、航空自衛隊・中央音楽隊に入隊。平成4年『第9回日本管打楽器コンクール』最優秀賞受賞。平成7年、シカゴでの『国際チューバ・ユーフォニアム・カンファレンス』にてソロリサイタル。他、国内外の演奏で高い評価を得る。今年1月、英国バーミンガムで行われたカンファレンスにて『ユーフォニアム・オブ・ザ・イヤー』を受賞、名実ともに世界のトッププレイヤーの一員となる。昨年5月に結婚。現在、栄町1丁目の自衛隊官舎に奥さまと二人暮らし。
◆立井啓介（たていけいすけ）：月刊えくてびあん編集人。

立井　いやあ外園さん、お久しぶりです。お忙しいところ。

外園　ごぶさたしています。前にベスト立川人・展（92年）にお招きいただいた時には、少ししかお話できなくて。

立井　あの時は確か、国内のコンクールで優勝されて（第9回日本管打楽器コンクール）。今度はまた世界的な賞だってうかがってね。ウチはおめでたいことが大好きだから（笑）今日はここで美味しいものでも食べながらと思って。

外園　ありがとうございます（笑）。

立井　ユーフォニアムという楽器を知らない人のために、ちょっと教えてくれますか。

外園　チューバをひと周り小さくした楽器という説明がよく使われるんですが、自分としては男声、テノールと同じ音域を受け持つ金管楽器、という言い方がしっくりきますね。

立井　「ユーフォニアム・オブ・ザ・イヤー」って「今年のユーフォニアム奏者」ってことでしょ。

外園　ユーフォニアムとチューバ、二つ楽器のための国際カンファレンスが、毎年開かれるんです。今年はイギリスのバーミンガムという所で。そこにゲストとして招待されて、その席で戴いたんです。

立井　ああ、じゃ今度は国際的なコンクールで優勝されたんだ。

外園　いや、これはコンクールじゃないんですよ。イギリスに19世紀から発行されてる「ブリティッシュ・バンズマン」という雑誌があるんです。ブラスバンドだけを扱ったかなり歴史がある音楽誌なんですけど、その出版社が創設した賞なんです。世界中の演奏者の中から、毎年一人選ばれるということなんですけど。

立井　ブラスバンド専門で、百年以上続いてる雑誌ですか。

外園　ええ。週刊誌なんですよ。

立井　週刊！　やっぱり本場なんですか、イギリスは。

外園　そうですね、とても盛んですね。伝統というか、そういう雑誌がずっと続いていくものがあるんですね。

立井　その本場の賞を、外園さん、もらっちゃった。しかも、日本人で初めて。

外園　いや、たまたま今年は欧米人の元気がなかったんじゃないですか（笑）。今でも自分自身、信じられないところがありますから。

立井　でも外園さんも、こう世界的なレベルに到達するということは、よほど小さい頃から取り組まれてたわけでしょう、音楽家になろうって。

外園　全然、全然。そんなのは全くないです。近所のオルガン教室に通ってたぐらいで（笑）。

立井　本当？　とすると、いつ頃なんですか、この道のきっかけは。

外園　中学の時、一応学校の吹奏楽部にいたんですけど、あまり熱心な感じではなくて。で、ある日、親といっしょに吹奏楽のコンサートを観に行ったんですよ。それが物凄くカッコよくて。「ああ、あんな風にできたらなあ」って。その演奏をしていたのが福岡工大付属高校だったんです。

立井　へえ、高校生の演奏だったんだ。

外園　ええ。あの高校の吹奏楽部は全国的に有名なんです。自分は実家は鹿児島なんですけど「絶対高校はあそこへ行く」って。親は「お前、何言ってんだ」って感じだったんですけど、自分なりにはっきりと意志表示をして、それで高校はそこに進んだんです。

立井　外園さんのミュージシャン魂が、そこで初めて火がついた。で、入学して、吹奏楽部に入部して。

外園　ええ。もう、スパルタでしたね（笑）。

立井　スパルタ（笑）。やっぱり全国に名を馳せる高校というと、練習も厳しい。

外園　同級生で野球部の生徒が言うんです。「吹奏楽部、大変だね」って（笑）。

立井　運動部に同情されちゃうんだ（笑）。指導されるのは学校の先生ですか。

外園　ええ。鈴木孝佳先生っていう顧問の先生がいたんです。とても厳しくて、でも、自分で音楽を教えていながら「お前ら、音楽でメシを食おうなんて考えるんじゃないぞ」なんて言うんです。高い技術を持った生徒を何人も指導していたにも関らず。

立井　おっ、それは何か哲学がある言葉だな。

外園　今になって、その言葉の意味がよくわかるような気がしますね。自分にとっての音楽の在り方、接し方を学んだ時期だったんだと思います。

立井　高校生でそこまで音楽に打ち込んでいたら、やっぱりその後は音楽大学とか、もっと専門的に勉強したいと思うでしょう。ところが、外園さんはそうしなかった。音楽を志す少年が、なぜ「自衛隊」なんですか。

外園　2年生を過ぎると、当然進路を考えますよね。やっぱり音楽を続けたかったから、音大受験を考えたんです。でも丁度その頃、実家でいろいろとアクシデントがあって。経済的にとても大学にやれる状況ではない、と言われて。

立井　それはご本人も勿論だけど、親御さんも辛かっただろうなあ。

外園　高校入る時にわがまま言いましたから、もう負担はかけられない。でも音楽は続けたい。それで、鈴木先生に相談したんです。

立井　あ、さっきの、面白いことを言う先生ね。

外園　ええ。そうしたら、薦めてくれたのが自衛隊の音楽隊だったんです。それで試験を受けて。

立井　私ら門外漢には、自衛隊という職業と「音楽」というのが結びつかなかった。不案内で失礼なんだけど、行進曲とか君が代とか、そっちの方へいっちゃう（笑）。

外園　いやいや（笑）。演奏会では歌謡曲もポップスもやりますよ。自分は入隊してもう10年になるんですが、一般の方が思われる、いわゆる自衛隊っぽい訓練は、入って3ヶ月間の研修の時だけ。それからは、もう本当の意味で音楽漬けの毎日です。公園の日程だけで、一年の約三分の一を占めるぐらいですから。

立井　さっき音楽隊の施設を拝見した時も、スタジオがあったり、作曲・編曲室なんてあったりして、ひとつの「ミュージック・ハウス」のような雰囲気だった。

外園　ええ。自分たち音楽隊の任務は、音楽による社会貢献なんです。だから演奏力に問題があったら仕事にならない。練習できる環境はバッチリなんです。

立井　そうすると「演奏家・外園」にしてみれば、音楽の大学に進むよりも、むしろ音楽漬けの今の環境の方が。

外園　そうなんです（笑）。ラッキーなんですよ。

立井　あの先生のジャッジメントが素晴らしかった。

外園　ええ。最初の頃はこれでいいのかなって思ったこともあるんですが、今は本当にありがたいなって。それに手前味噌なんですが、航空音楽隊のレベルもどんどん上がってるんです。今入隊するのはすごく難しくて、実際、音大を卒業してからじゃないと入れないぐらいの状況になってる。自分のように大学をあきらめて来るのではなくて、今はみんな音楽をやるために入隊してくるんですよ。

立井　今や大学以上に狭き門。外園さんみたいな人が出てるから。

外園　でも、音楽隊の人間で、自衛隊員になりたくて入った人は一人もいないんじゃないかな（笑）。

立井　そうなんだ（笑）。ところで外園さん、自分だけの練習方法ってありますか。

外園　自分は「ウォーミング・アップ」がすべてなんですよ。

立井　ウォーミング・アップ？

外園　ええ。たとえば短距離の選手がいきなり走り出したって、世界記録は出ませんよね。それと同じで。ウォーミング・アップだけで、いつも1時間は使いますね。

立井　はあ、1時間も。

外園　今の自分の師であるスティーブン・ミード（英国が誇るユーフォニアムの第一人者。『ユーフォニアム・オブ・ザ・イヤー』には過去2回輝いている）が、世界各国を廻って、時差ボケ状態でも完璧な演奏を披露する。理由を聞いたら「ウォーミング・アップだ」って。

立井　それはユーフォニアムという楽器独特のものなのかな。

外園　いや、すべての楽器に言えることでしょう。優れた演奏家は、誰でも自分なりのウォーミング・アップ法を持ってると思いますよ。

立井　さっきも例に出たけれど、スポーツ選手に近い感覚。

外園　体育会系の吹奏楽部出身ですから（笑）。毎日やり続けることって、やっぱり大切ですね。自分はこんな感じでしょ、走るの遅いんですよ。自衛隊に入った頃、最初に3ヶ月の訓練があるんですけど、そこでやたら走らされる。自分はいつも遅くて悔しいんです。で、その期間、どれだけの距離を走ったかって記録をつけるんですけど、速さじゃ負けちゃうから距離なら負けないって。だから毎日走ったんです。訓練期間が終ってみたら、その年の入隊者で3位になっちゃった（笑）。

立井　負けん気、負けないぞっていう気概でしょうね。どの世界でも言えることだろうけど、やはり「音大出身」といった肩書きみたいなものが、幅を利かせてしまうところってあるでしょう。そういう中でここまで頑張っておられるのも、負けん気あっての。

外園　コンプレックスに悩んだことも勿論ありますけど…。やっぱり負けず嫌いなんでしょうね（笑）。

立井　でも表現というのは本来、出てきたものがすべて。肩書きで評価されるものじゃないものね。

外園　ええ、本番で出てくる音がすべてですから。生の状況で、どれだけ人に喜んでもらえる演奏ができるかということが真の演奏者だと思うし、自分も常にそう在りたいと。

立井　楽器を持って頑張ってる日本中の若い子たちが「俺も！」って勇気づけられる。今回の外園さんの受賞には、そういう力が備わってると思うなあ。

外園　そう言って頂けると。でも、それは本当に本望ですね。地方の学校などに招かれて演奏に行くと、本当に音楽が好きで頑張ってるこどもたちが大勢いる。その子たちに何ができるか、それが今後の自分のテーマにつながっていると思います。

立井　近々、演奏の予定は。

外園　6月6日に新宿の厚生年金会館で、航空音楽隊の定期演奏会があります。そこでソロ吹きます。宣伝しちゃいましたね（笑）。

立井　どうぞどうぞ、せっかくだから（笑）。

4月24日　たかぎ亭（錦町）にて

東風

吹奏楽といえば喇叭（らっぱ）の集団だが、喇叭の種類を知っている人はそう多くはないのではなかろうか。少し旧い人なら進軍ラッパ、豆腐屋のラッパと答えるかも知れない◆ユーフォニアムという楽器がチューバをひと廻り小さくしたような、男性のテノールとほぼ同じ音域をもつ金管楽器といわれても、どうもピンとこない。どう説明すればよいのであろうか。いずれにしても、管楽器というものは、聴く者の胸に直に響いてくるものだ。いつだったか、アミューたちかわ（市民会館）で行われたクリスマス・コンサートであったと思うが、航空自衛隊の演奏で外園祥一郎さんがユーフォニアムの独奏を聞かせてくださった。その時の音調を思い出しながら、今回の対談を進めていったのだが、それにしても『ユーフォニアム・オブ・ザ・イヤー』というのは相当にビッグな賞だと知ったのは、ようやく対談が終わりかけた頃であった。まさに、世界の「頂点」に立ったと云ってよいのであろう◆われらが『ベスト立川人・展』に登場した人が、こうして世界の「頂点」に立ったことがなによりも嬉しい。かつて児玉勝己さんがハンドベルの指揮者としてカーネギーホールに立ったことを懐かしく思い出させてくれた。そして、音楽ほど才能を要求される芸術は他にないが、外園さんも児玉さんも才能開花の場所を見出す「天才」であった◆麦秋や　暮れても空に　えくてびあん

（表紙）日本画「初夏に」渥美靖子（錦町2丁目）
（編集）池田隆男　小林康史　鶴川 理　名尾昭真　山田恵子　松本わかこ　大須賀久典
（写真）天野武男　板橋一明　井上義治　スタジオ269　中村 伸　五来孝平

月刊えくてびあん　第155号
平成九年六月一日発行
発行所　えくてびあん編集工房
東京都立川市曙町2-17-5
杉田ビル6F　〒190
電話　〇四二五（28）〇〇八二
FAX　〇四二五（28）〇〇六五
編集発行人　立井啓介
印刷所　㈱大廣社

えくてびあんの輪

人がゐて、街があります。
あなたがゐて、立川があります。
そこにちょっとだけ、えくてびあん！
リストのお店にはいつでも　えくてびあん！

立川昆虫記 11

絵・文　中西　章（若葉町）

【シロスジカミキリ】

コウチュウ目カミキリムシ科

【ゴマダラカミキリ】

コウチュウ目カミキリムシ科

昔はどこにでも居たこの二種類のカミキリムシも、市内各地の雑木林が消えるに従ってめっきり少なくなりました。シロスジは体長52ミリで日本最大のカミキリムシです。幼虫は、コナラ、クヌギ、イチジクほか多くの生きた植物の幹の中を食べます。ゴマダラは体長35ミリ、シロスジと同じ植物を食べますが、特にミカンなどの生きた果樹が多いようです。強大な鋭いアゴで樹皮に穴を開け、産卵し、幼虫は幹の中にトンネルを造って食べ進むので、鉄砲虫と呼ばれます。上の絵の様に両方の成虫は、葉や樹皮を食べて、三ヶ月から十ヶ月生きます。カミキリは髪切りの意味で昔の人がいたずらをして、触角をアゴでかみ切らせたのでその名があるとの説です。